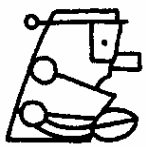


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

カエルが雨の日元気になるのは、なぜなの



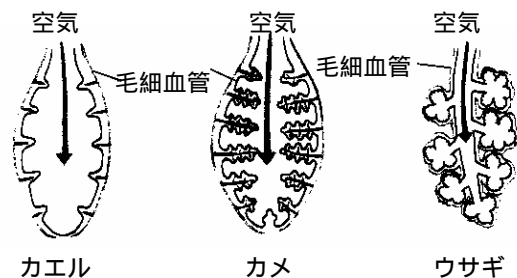
カエルは皮^ひふ呼吸^{こきゅう}もして、皮^ひふがかわくと皮^ひふ呼吸^{こきゅう}がしづらくなり、雨でしめると元気になるのさ。

カエルは、肺^{はい}呼吸^{きゅう}と皮^ひふ呼吸^{こきゅう}をしている

カエルは、肺呼吸^{はいきゅう}をしています。けれども、カエルの肺^{はい}のつくりは、同じ肺呼吸^{はいきゅう}をするなかまの鳥やカメ、人間などとくらべると、とてもかんたんなつくりで、いちどに酸素をとり入れられる量も、それほど多くありません。そのため、カエルは、必要な酸素の量の半分ぐらいを、皮^ひふからとり入れる皮^ひふ呼吸^{こきゅう}もしています。

ふつう、呼吸^{こきゅう}するとき、酸素は水にとけた形でとりこまれます。カエルの皮^ひふが、いつもぬれたようで、ぬるぬるしているのは、皮^ひふ呼吸^{こきゅう}をするためなのです。カエルの皮^ひふからは、いつもねん液^{ねんえき}が出ていて、皮^ひふがかわくのを防いでいます。同じ皮^ひふ呼吸^{こきゅう}をしているミミズも、体の表面^{ひょうめん}がしめっています。

カエルは、日が当たって皮^ひふがかわきやすい場所は苦手^{にくたへ}で、雨の日など、しめり気が多いときは、安心して動き回れるわけです。



<肺^{はい}のつくりのちがい>

カエルの子のおたまじゃくしは、えらで呼吸^{こきゅう}する

カエルの子どものおたまじゃくしは、水中で暮らし、魚と同じようにえらで呼吸^{こきゅう}をしています。口から吸^すいこんだ水の中にとけている酸素^{さんそ}を、えらで血液^{けつえき}中にとり入れているのです。おたまじゃくしに手足^{てあし}がそろうと、顔つきもカエルようになってきて鼻^{はな}ができ、体内^{ていん}に肺^{はい}ができます。そして、肺呼吸^{はいきゅう}をするカエルになります。

もっと知りたい人へ：「おたまじゃくしには、えらがあるの」も見てみよう。